

第74次印旛地区教育研究集会

国語科「話すこと・聞くこと」分散会提案資料

研究主題

主体的に関わり合い、自分の思いを表現する児童の育成

～遊び方の説明とICT機器の活用を通して～

資料編

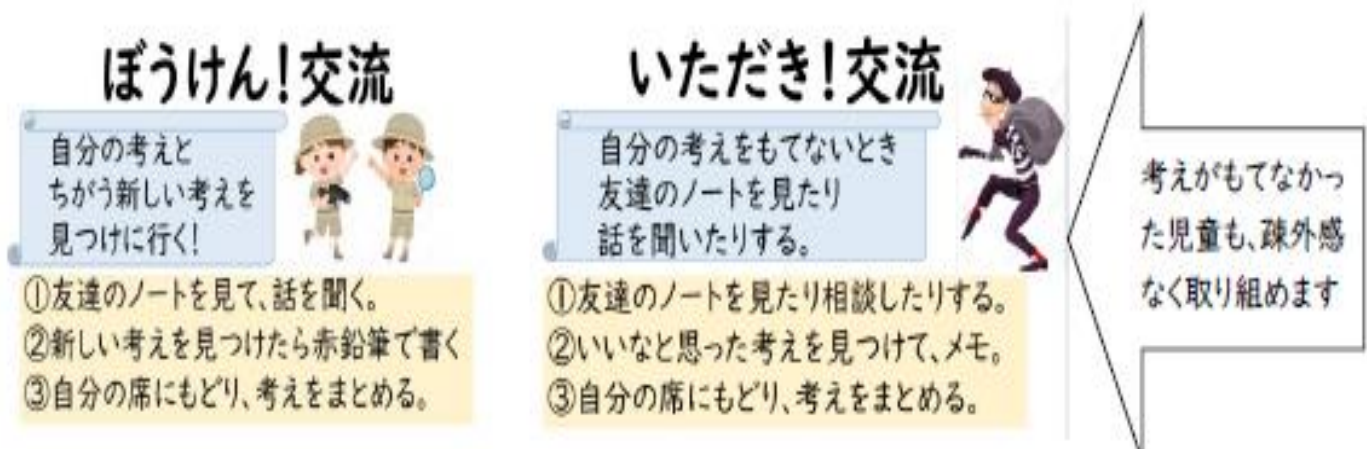
八街市立八街東小学校

○交流環境の工夫

・2種類の交流方法

ノートや chromebook（ロイロノート）に、自分の考えを書き終わった児童から交流を始めた。

①ぼうけん交流 ②いただき交流 があり、詳細は下記。

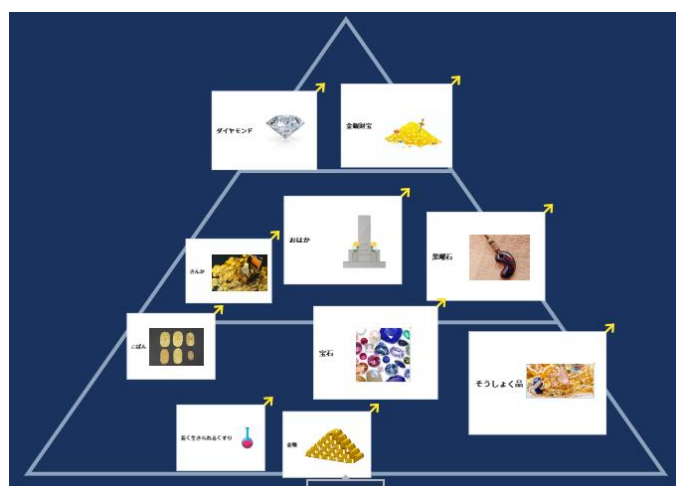
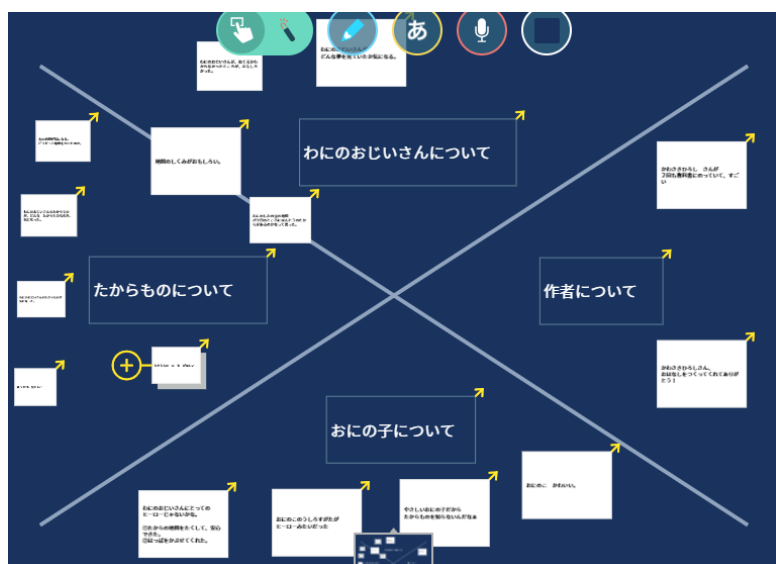


・交流する場所

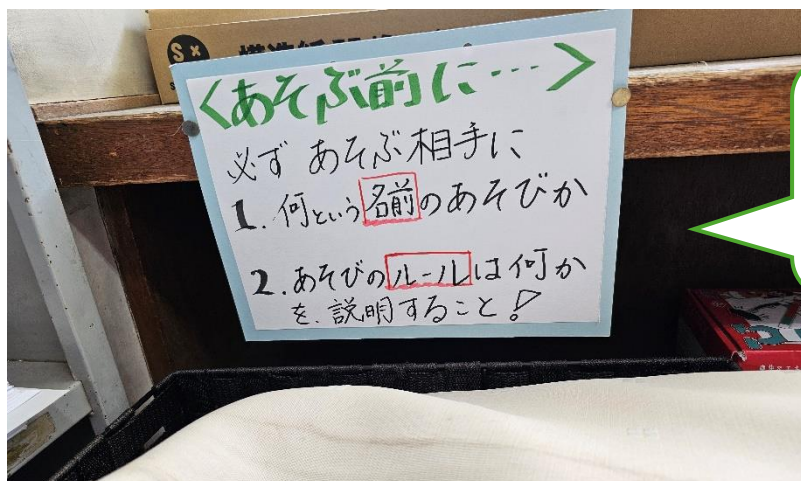
教室後方とし、教室前方は自分の考えを書くところ、教室後方は交流を行うところ、という環境をつくった。

・ロイロノートでの交流

意見をカードとして作成し、自由に移動や拡大などの操作ができるため、交流活動の一つとして活用した。主に①Xチャートによる分類 ②ピラミッドチャートによる焦点化 を行った。共同で作業できるため、前期は全体の意見を教員が提示・操作し、使い方を十分に理解した後、後期は児童が操作するようにした。



○教室環境の工夫



遊びの前にはルール説明をさせ、
相手意識をもって話すことを日常化
させた。

ローテーブルを設置し、使いたい
児童はここで遊ぶことを許可した。
学習とは違う環境を用意するこ
とで、進んでルール説明もできた。



1 単元名「「クラスお楽しみ会」をひらこう」

2 単元の目標

- ・ 共通、相違、事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。

（知識及び技能（2）ア）

- ・ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。

（思考力、判断力、表現力等A（1）オ）

3 本単元における言語活動

- ・ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A（2）イ）

4 単元について

（1）単元観

本単元は「話したいな、聞きたいな、夏休みのこと」に続く「話すこと・聞くこと」の教材であり、グループによる話し合いの単元である。これまでの一人で話したり、話し手の話を聞いたりしてきた学習経験をもとに、少人数での合意形成のための話し合いをする。一人の話を聞いてから感想や質問を言う活動に比べると、面白さだけでなく難しさもある。

本単元では、これまでの学習を生かし、グループで話し合ったことをもとに、「クラスお楽しみ会」の遊びを決めるという場を設定する。少人数での話し合い場面では、四人で決めていく過程をグループの活動を例示し、イメージしやすくする。話し合いを円滑にするための支援として、カードでの提案やカード操作による思考整理を取り入れる。個別の考えを明確にし、話題からそれずに話し合いを行うことができるだろう。

（2）児童の実態（男子20人 女子14人 合計34人） 令和6年9月実施

実態調査の結果から、「自分の考えを話すことができますか」の問いに対し、55%の児童が「できない・どちらかといえばできない」と否定的な回答をしている。また、その理由として「わかりやすく説明するのが難しい。」が理由の半数以上を占めており、次いで「詳しく説明できない。」「言葉や理由が思い浮かばない」といった回答が多かった。授業中の活動の様子を観察すると、児童同士の意見の交流の場には参加しているものの、自分の意見を話さない児童が複数名いることが改めてわかった。また、消極的に参加している児童のほとんどが、「国語の学習は好きですか」の質問に対しても否定的な回答をしていることがわかった。

（3）指導観

実態調査の結果から、本学級の児童は自分の考えを表現することに対し、消極的になってしまいうことが多いことがわかった。そこで本単元では、以下の2つを中心に指導をしていく。

1つめに、話し合いの目的の把握である。本単元では「クラスお楽しみ会をひらこう」という子どもたちにとっては貴重な遊びの機会を設けることが目的であるため、目的を全員が間違いなく把握することが容易である。このことで、自分の考えをもちやすくなったり、相手の考えの大事なところを理解しながら必要に応じて質問することができやすくなったりするだろう。

2つめに、話題からそれないようにすることである。そのために、自分の考えをロイロノート
のカード機能を使って書く。カードを見ながら話し合いを進めることで、何について話している
のか、また、相手の意見のうち何が聞きたいかがはっきりする。本単元では合意形成が肝要であるが、カードを見合いながら話し合いを進めることで、互いの考えの共通点や相違点などを整理しながら活動ができるだろう。

5 研究テーマとの関わり

研究テーマ 「主体的に関わり合い、自分の思いを表現する児童の育成～遊び方の説明とICT機器の活用を通して～」

本学級の児童は、児童同士の意見の交流の場には参加しているものの、自分の意見を話せない児童が複数名いる。そのため、以下の2点を手立てとして実践していく。

手立て1 話し合いの仕方を提示

説明の仕方を提示しておくことで、自分の考えが相手に伝わる話し方ができるよう意識させることで相手の説明がわかりやすいかどうかの指標とさせるとともに、話題の中心が何か理解しやすくなるだろう。

手立て2 ICT機器を生かした話し合いの支援

ロイロノートでつくったカードを見ながら話し合うことで、話題がそれないようにするとともに、互いの話の共通点や相違点を整理しやすくなるだろう。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「話すこと・聞くこと」において互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ)	①積極的に互いの話に関心をもって相手の話をつなぎ、学習過程にそって「クラスお楽しみ会」でする遊びを決めるために、話し合おうとしている。

7 指導と評価の計画（全8時間 本時4／8）

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価基準・評価方法
一 次	1	○「クラスお楽しみ会」でする遊びを決めるために、グループで話し	・「クラスお楽しみ会」でする遊びを決めるために話し合うという学習の見通しをもっている。

		合うという学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	(主①)【発言・ノート】
二次	2 3	○やりたい遊びを書き出し、その中から一つを選ぶ。 ○ロイロノートのカードに、「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を書く。	・「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びを考え、考えた遊びとその理由をカードに記している。 (主①)【観察・ノート・chromebook】
	4 5	○話し合いを行う。	・グループで「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を、理由を表す言い方を使いながら話している。(知・技①)【観察・発言】 ・相手の話に関心をもち、相手の発言を受けて質問したり、感想を伝えたりすることができる。 (思・判・表①)【観察・発言】
	6 7	○グループの話し合いをクラスに伝える。	・グループでの話し合いを、みんなの前で話したり、話を聞いて質問や感想を伝え合ったりしている。(主①)【観察・発言】
三次	8	○話し合いの感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	・グループでの話し合いの感想を伝え合い、学習全体を振り返っている。 (知・技①)【発言・ノート】

8 本時の指導

(1) 評価規準

- ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(思考・判断・表現)【発言】
- ・「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を、理由を表す言い方を使いながら話している。
(主体的に取り組む態度)【ノート・話し合い】

(2) 研究テーマとの関わり

- ・話し合いの仕方を提示
- ・ICT機器を生かした話し合いの支援

(3) 展開

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
2	1 教科書の拡大掲示を見て、話し合いの流れとイメージをもつともに本時のめあてをつかむ。	・協調的な雰囲気であることや、発言の際には理由を表す言い方を使っていることをおさえる。	拡大掲示
	話し方・聞き方をいしきして、クラスお楽しみ会でやるあそびをきめよう		
3	2 P 6 1「大事な言い方」および P 6 3の「ここが大事」を確認	・電子黒板に表示しておき、いつでも確認できるようにする。	電子黒板

	し、話し合いの仕方を確認する。	◎説明の仕方を提示しておくことで、伝わりやすい話し方を意識させるとともに、相手の説明がわかりやすいかどうかの指標とさせる。	
20	3 前時にロイロノートにて作成したカードを使って、グループで話し合う。	・先に「遊び」その後に理由をつけて話すことを確認する。 ◎今までに自分が経験してきた説明の仕方を想起させ、相手意識をもって説明させる。 ○「クラスお楽しみ会」でやりたい遊びとその理由を、理由を表す言い方を使いながら話している。 (主体的に取り組む態度)【ノート・話し合い】	Chromebook (ロイロノート)
15	4 カードを整理して、グループで遊びを一つ決める。	・必要に応じて説明しなおしたり、付け加えて説明したりして良いことを伝える。 ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 (思考・判断・表現)【発言】	
5	5 本時の振り返りをし、次時の活動を確認する。	・次回はグループごとに一つに決めた遊びを発表し、クラスお楽しみ会でやりたい遊びを決めることを伝える。	

(4) 板書計画

○あそびを一つにきめる

〈聞くとき〉
話す人を見る

〈話すとき〉
はやし・聞く人を見る
大事な言い方をつかう
話の中心に気をつけて聞く

○グループで話し合う

☆大事な言い方

① どうしてかというところからです。

② ●●さんの考え方がいいと思います。

③ わたしも●●さんと同じですすがいいと思います。

☆ここが大事な
つないで話し合う

・ わかりやすく理由を話す。

・ 友達の話をよく聞く。

・ もっと知りたいことやわからないことは、しつもんする。

④

話し方・聞き方をいしきして、クラスお楽しみ会でやるあそびをきめよう

○話し合いの様子で気づいたこと

- ・ 話している人を見ている。
- ・ 「〜からです」と言っている。

1 単元名「おはじきのあそび方」

2 単元の目標

- ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話することができる。知識及び技能（1）イ）
- ・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思考力、判断力、表現力等A（1）イ）

3 本単元における言語活動

- ・紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A（2）ア）

4 単元について

（1）単元観

本単元は、生活科の学習と関連させ、昔遊びの説明をする活動を行う。遊びの説明は、遊びの手順を説明するということであるため、必然的に順序を意識した説明が求められる。

まずは説明したい遊びを選び、その遊び方を家族に聞いたり本やインターネットで調べたりする。調べるうちに同じ遊びの道具でも多くの遊び方があることに気付き、友達の知らない遊び方を知らせたいという意欲につなげる。次に、遊びの手順を短い言葉でメモにまとめる。その際、同じ遊びを選んだ児童同士で実際に遊びながらメモを書くことで、詳しい手順や言葉の選択ができるようにする。そして、メモをもとに、遊び方を説明する。説明後、実際に遊ぶ場を設けることにより、順序良く説明するよさを実感させたい。

（2）児童の実態（男子20人 女子14人 合計34人） 令和7年1月実施

実態調査の結果から、「自分の考えを話すことができますか」の問いに対し、40%の児童が「できない・どちらかといえばできない」と否定的な回答をしている。また、その理由として「わかりやすく説明するのが難しい。」が理由の半数以上を占めており、次いで「自信がない」「緊張してしまう」といった回答が多かった。以前の調査時と比べると、授業中の交流において、自分の意見を話せない児童は明らかに減った。しかし、冗長な言い方になってしまったり、自分の言いたいことがうまく伝えられなかったりする児童も多くおり、また、相手の話の要点が理解できていない児童もいることがわかった。

（3）指導観

実態調査の結果から、本学級の児童は自分の考えを相手に伝えることとそれを受け取ることに難しさを感じていることがわかった。そこで本単元では、以下の2つを中心に指導をしていく。

1つめに、説明を聞く相手を意識しながら話すことである。単元のゴールとして、下級生に遊

びの説明をし、一緒に遊ぶことを設定する。下学年の児童への説明では、同級生に説明するとき以上にわかりやすい説明を心がけなければならない。「はじめの言葉」「おわりの言葉」をつけたり、順序を表す言葉「はじめに」「つぎに」「そして」を入れたりすると分かりやすいことを指導し、より伝わりやすい説明ができるようになるだろう。

2つめに、自分の説明を客観的な視点から振り返ることである。以下の二つの方法で自分の説明を振り返らせる。

①chromebook の録画機能を使って振り返る。

②少人数グループで互いに説明を聞き合い、フィードバックをもらって振り返る。

上記2つの方法により、自分の説明のいらない部分や詳しく説明しなくてはならない事柄などに気付いたりさせることで、より洗練された説明ができるようになるだろう。

5 研究テーマとの関わり

研究テーマ 「主体的に関わり合い、自分の思いを表現する児童の育成～遊び方の説明とICT機器の活用を通して～」

本学級の児童は、本学級の児童は自分の考えを相手に伝えることとそれを受け取ることに難しさを感じている。そのため、以下の2点を手立てとして実践していく。

手立て1 少人数グループの形成

同じ遊びを選んだ児童同士で少人数のグループを形成し、意見を交流しながら書かせることで、困ったり悩んだりしたらすぐに相談ができるような場となり、自分の考えの形成がしやすくなるだろう。

手立て2 ICT機器を活用したメタ認知

Chromebook の録画機能や共有ノートを活用し自分の説明を振り返ることで、自己の評価を客観視することができる。また、友達との比較もしやすくなるため、よりよく自分の説明を改善することができるだろう。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている(A(1)イ)	①積極的に相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、遊び方について説明しようとしている。

7 指導と評価の計画(全5時間 本時3/5)

学習過程	時	学習内容と学習活動	評価基準・評価方法
一	1	○昔の遊びについて、遊び方を調べて、	・昔の遊びの中から説明したい遊びを決め、学

次		友達に説明することや、それを生かして下級生へ遊びの説明をするという学習の見通しをもって、学習計画を立てる。 ○説明する遊びを決め、遊び方を調べる。	習への見通しをもっている。 (知・技①)【発言・ノート】
二 次	2	○遊び方を調べる。 ○調べた遊び方で遊ぶ。	・本や資料、インターネットなどを使って、友達に説明したい遊びの遊び方を調べている。 (主①)【発言・ノート・chromebook】
	3	○説明のメモを書き、練習をする。	・遊び方の順序を考えてメモを書き、説明の練習をしている。 (思・判・表①)【発言・ノート・chromebook】
	4	○メモをもとに、友達に遊び方を説明する。	・メモをもとに、順序に気をつけて遊び方を説明している。 (主①)【発言・ノート・chromebook】
三 次	5	○下級生へ遊びの説明をし、実際に遊んでみる。 ○どんなことに気を付けて話したかを振り返らせる。	・メモをもとに、順序に気をつけて遊び方を説明している。 (主①)【発言・ノート・chromebook】

8 本時の指導

(1) 評価規準

- ・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。
(思考・判断・表現)【ノート・発言】
- ・積極的に相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、昔の遊び等の遊び方について説明しようとしている。
(主体的に取り組む態度)【ノート・話し合い】

(2) 研究テーマとの関わり

少人数グループの形成

I C T機器を活用したメタ認知

(3) 展開

時配	学習活動と内容	指導・支援 ○評価 ◎仮説との関わり	資料
2	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	・前時に書いた文章を確認して本時の活動の見通しをもつことができるようにする。	前回のノート (遊び方の説明文) 単元計画表

	あそび方のメモをつかって、せつめいのれんしゅうをしよう。		
1 3	2 自分で選んだ遊びの、遊び方を説明するためのメモを書く。	・簡単な説明を箇条書きで書かせて、文章を組み立てやすくする。 ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 (思考・判断・表)【ノート・発言】 ◎同じ遊びを選んだ児童同士で少人数のグループを形成し、意見を交流しながら書かせる。	ノート 付箋 Chromebook 遊びの道具 (こま・かるた・おはじき・けん玉等)
2 2	3 メモをもとに、順序に気をつけて遊びについて説明の練習をする。	・使いたいものを児童が選んで使うように声をかける。 - ノート…簡単な説明を書いた付箋を動かして、説明を作り上げる。 - Chromebook…①ロイロノートを用い、説明を作り上げる。 ②録音機能を使い、繰り返し練習をする。 ○積極的に相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、昔の遊び等の遊び方について説明しようとしている。 (主体的に取り組む態度)【ノート・話し合い】 ◎Chromebook の録画機能や共有ノートを活用し互いの説明を見合うことで、自分の説明を客観的に評価させる。	ノート Chromebook
8	4 本時の振り返りをし、次時の活動を確認する。	・今日の活動を振り返り、できてうれしかったことや次にやりたいことなどを振り返りとして書く。	ノート

(4) 板書計画

